

## 日本知財学会第 10 回年次学術研究発表会 セッションレポート

1. 作成者	知財 PeCo 濱口礼雅 (シャープ株式会社 研究開発本部 知財C 第二ライセンス室) 北川早紀 (株式会社神戸製鋼所 技術開発本部 知的財産部)
2. テーマ	企画セッション 「中国の知的財産戦略と今後の発展予測、日本企業の対応」
3. レポート	<p>(黄賢涛氏による講演)</p> <p>日本の知的財産戦略大綱に相当する「国家知的財産権戦略要綱」が 2008 年に公布されて以降、中国の知財は大きく発展し、2011 年には出願件数世界 1 位とまでなった。しかしながら、数字を追い求めた結果、質の低い出願が増加するという問題や、不十分な管理システム、各省庁間の連携不足という課題も多く抱えているのが実態である。また、中国では知財を保有するだけで価値のある不動産のように捉えている感があるが、知財を以って経済を支えるには技術の発展に注力することが重要と考える。今後の発展のために、知財業務サポートシステムの構築、知財の質の向上、知財保護システムの構築、知財に対する投資モデルの推進、企業の知財対応力の向上、知財文化の発展及び普及を期待したい。</p> <p>(張立岩氏、小池清仁氏、村川一雄氏、小川公人氏を含めた討論会)</p> <p><b>【知財の変化】</b></p> <p>出願件数が増えたことに加えて、内国人出願比率が増えたこと、企業や大学などの出願が増えたことから、中国人の知財に対する意識が大きく変化したことが伺える。この変化の要因として、国を挙げての知財教育や計画経済への知財体制組込み、知財先進国からの知識の取り入れ、華僑による海外と国内の連携が挙げられる。</p> <p><b>【訴訟リスク】</b></p> <p>現在、中国の知財訴訟は年間数千件と増加傾向にあるが、多くは国内企業同士の争いである。中国企業が日本企業に対して訴訟を起こすリスクは今後短期間では低いと考えるが、パテントトロールを使った訴訟には注意されたい。</p> <p><b>【今後の知財発展】</b></p> <p>多くの企業が知財に注目しており、さらに知財の活用にも目を向けている。また、知財サービス業も増加しており、今後の中国知財はより良い方向に発展すると考える。</p>